

2021.4.17 京機会中部支部総会 特別講演会

## 「京都盆地北部でなにが起きたか？」

～京都大学キャンパスに定点を置いた、自然的・社会的「地形」の通史～

梅林 秀行

京都高低差崖会 崖長

京都大学キャンパスが置かれた京都盆地の東北部は、花折断層、吉田山（末端膨隆丘）、白川扇状地、さらには接触変成岩（ホルンフェルス）といった、特徴的な地形・地質が目白押しです。キャンパス周辺を歩くだけで、京都盆地さらには日本列島スケールの地形発達を学ぶことができるでしょう。

一方でキャンパスが置かれた一帯は、NHKのTV番組「ブラタモリ」（銀閣寺編・東山編）でも紹介したように、銀閣寺（慈照寺）の「銀閣」「東求堂」に代表される室町時代「東山文化」の中心地でもありました。さらに縄文時代から弥生時代の先史遺跡（北白川遺跡群）、古代の天皇陵、中世近世の巨大聖地（吉田神社）、そして琵琶湖疏水などの近代インフラが集中する地域でもあります。

「京都大学キャンパス」とは、京都にとって、そして日本の歴史にとって、どのような位置を占めたのでしょうか。大学のキャンパスに定点を置いて、自然と人間の相互交渉からみた「地形」を探ってみたいと思います。

### 【略歴】

1973年、名古屋市生まれ。京都高低差崖会崖長。京都ノートルダム女子大学非常勤講師。NHK『ブラタモリ』など歴史地理に関するテレビ番組に多数出演。著書に『京都の凸凹を歩く』1&2巻（ともに青幻舎）。「まちが居場所に」をモットーに、散歩から感じた物語を大切にしている。趣味は銭湯へ通うこと、おいしいパンとコーヒーを探すこと。

